



平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月8日

上場会社名 株式会社カネカ 上場取引所 東証一部・大証一部・名証一部
 コード番号 4118 URL <http://www.kaneka.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)菅原 公一
 問合せ先責任者 (役職名)経理部長 (氏名)石原 忍 TEL (06)6226-5169
 四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績 (平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	306,752	△14.8	13,392	16.3	12,509	23.3	7,132	100.4
21年3月期第3四半期	360,005	—	11,515	—	10,146	—	3,559	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年3月期第3四半期	21	03	21	02
21年3月期第3四半期	10	47	10	47

※昨年度は「四半期財務諸表に関する会計基準」等の適用初年度であったため、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
22年3月期第3四半期	428,816		255,368		57.7	729	78	
21年3月期	418,489		249,529		58.1	717	15	

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 247,577百万円 21年3月期 243,305百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
21年3月期	—		8	00	—		8	00	16	00
22年3月期	—		8	00	—					
22年3月期(予想)							8	00	16	00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	410,000	△8.8	17,000	123.6	15,000	156.6	7,500	—	22	11

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 有

※前期 (平成21年3月期) の「当期純利益」は純損失であったため、対前期増減率は記載しておりません。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

〔(注) 詳細は、6 ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。〕

- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 無
② ①以外の変更 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

22年3月期第3四半期	350,000,000株	21年3月期	350,000,000株
-------------	--------------	--------	--------------

- ② 期末自己株式数

22年3月期第3四半期	10,750,039株	21年3月期	10,735,630株
-------------	-------------	--------	-------------

- ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)

22年3月期第3四半期	339,258,465株	21年3月期第3四半期	340,057,559株
-------------	--------------	-------------	--------------

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・平成21年4月28日に公表いたしました連結業績予想につきましては、平成22年2月8日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」にて、通期の業績予想を修正しております。
- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、5 ページ【定性的情報・財務諸表等】 3. 連結業績予想に関する定性的情報 をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループの当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日～平成21年12月31日）の業績は、売上高は306,752百万円（前年同四半期比14.8%減）と前年同四半期連結累計期間を下回りましたが、営業利益は13,392百万円（前年同四半期比16.3%増）、経常利益は12,509百万円（前年同四半期比23.3%増）と前年同四半期連結累計期間を上回りました。また、四半期純利益は7,132百万円（前年同四半期比100.4%増）となりました。

セグメント別では、前年同四半期連結累計期間と比較して、売上高は全事業が減収となりました。営業利益は、化成品事業、機能性樹脂事業、発泡樹脂製品事業、食品事業が増益となりましたが、ライフサイエンス事業、エレクトロニクス事業、合成繊維、その他事業は減益となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

①化成品事業

塩化ビニール樹脂は、国内需要の低迷が続きましたが、輸出価格の改善に加え原燃料価格上昇に対応した販売価格の修正を行い、減収ながら増益となりました。塩ビ系特殊樹脂は、国内需要が低調に推移しました。か性ソーダは、海外市況が大幅に悪化するとともに国内需要が低迷しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は57,954百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ15,479百万円（21.1%減）の減収となりましたが、営業利益は947百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ148百万円（18.6%増）の増益となりました。

②機能性樹脂事業

モディファイヤーは、アジア及び欧米市場の需要回復が本格化せず、日本市場も低迷し減収となりましたが、原燃料価格の上昇に対応した販売価格の修正やコストダウン等により増益となりました。変成シリコーンポリマーは、日本・欧州の建築関連需要の不振から減収となりましたが、販売価格の修正や原価低減策が実り、前年同四半期連結累計期間並みの収益を確保しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は45,548百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ10,071百万円（18.1%減）の減収となりましたが、営業利益は6,949百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ3,168百万円（83.8%増）の増益となりました。

③発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂・成型品、押出發泡ポリスチレンボードは、国内市場の低迷により販売数量が減少し、ポリスチレンペーパー等の事業撤退の影響も重なって減収となりましたが、徹底した製造コストダウンと経費削減に取り組み、収益性の確保に努めました。

以上の結果、当セグメントの売上高は41,181百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ14,887百万円（26.6%減）の減収となりましたが、営業利益は4,093百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ3,280百万円（403.6%増）の増益となりました。

④食品事業

食品は、消費者の節約・低価格志向の影響を受けて需要が伸び悩み、販売数量・価格ともに下落しましたが、コストダウンと新製品拡販による収益の回復に注力しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は90,487百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ4,481百万円(4.7%減)の減収となりましたが、営業利益は6,792百万円と価格修正の遅れから大幅に落ち込んだ前年同四半期連結累計期間と比べ4,605百万円(210.5%増)の増益となりました。

⑤ライフサイエンス事業

医療機器は、インターベンション事業の販売が順調に拡大し、増収増益となりました。医薬バルク・中間体は、販売数量が伸び悩み減収減益となりました。機能性食品素材は、高機能品の販売数量が増加したものの、既存製品の競争激化に伴う販売数量の減少と価格下落が響き減収減益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は27,349百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ4,105百万円(13.1%減)の減収となり、営業利益も2,806百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ2,533百万円(47.4%減)の減益となりました。

⑥エレクトロニクス事業

液晶関連製品は、エレクトロニクス製品の市場回復に伴う販売数量増加のため増収増益となりましたが、超耐熱性ポリイミドフィルムは前年同四半期連結累計期間の水準には至らず、減収減益となりました。太陽電池は、国内の販売数量が増加したものの欧州の需要低迷と競争の激化に伴う価格下落が響き、減収減益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は26,840百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ3,085百万円(10.3%減)の減収、営業損失も4,931百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ6,279百万円の減益となりました。

⑦合成繊維、その他事業

合成繊維は、世界的な景気低迷の影響から海外市場の需要が低調に推移し、円高の影響も加わって減収減益となりました。また、その他事業は、前年同四半期連結累計期間並みの売上高となりましたが、エンジニアリング子会社の解散等により減益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は17,391百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ1,142百万円(6.2%減)の減収となり、営業利益も1,327百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ651百万円(32.9%減)の減益となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1)資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ10,326百万円増の428,816百万円、有利子負債残高は8,290百万円減の63,867百万円となりました。また、純資産は、その他有価証券評価差額金の増加等により5,839百万円増の255,368百万円となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等によりプラス39,571百万円、投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等によりマイナス19,308百万円、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済等によりマイナス16,261百万円となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は、29,735百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

国内市場の需要回復のペースは依然として鈍く、海外市場では中国をはじめアジアの需要が回復基調にはあるものの、欧米市場回復の足取りは鈍い状況にあります。また、原油・ナフサ価格が再び高騰してきており、原燃料コストの更なる上昇が懸念される情勢にあります。この様な状況におきまして、当社グループの各事業は、販売数量増大のための施策及び製造コストダウンや経費の削減等の収益力回復策に徹底して取り組んでおり、通期の連結業績予想は前回予想を上回る見込みとなりました。

第4四半期連結会計期間の為替レート、原燃料価格につきましては、90円/米ドル、130円/ユーロ、国産ナフサ価格48,000円/KLと想定しております。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	410,000	13,000	11,000	6,000	17.69
今回修正予想 (B)	410,000	17,000	15,000	7,500	22.11
増減額 (B - A)	0	4,000	4,000	1,500	
増減率 (%)	0.0%	30.8%	36.4%	25.0%	
(ご参考) 前年実績 (平成21年3月期)	449,585	7,604	5,844	△1,850	△5.45

※上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を一部省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法で算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げについては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

なお、一部の連結子会社では、固定資産の年度中の取得、売却又は除却等の見積りを考慮した予算に基づく年間償却予定額を期間按分する方法によっております。

④経過勘定項目の算定方法

合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

⑤法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加減算項目や税額控除項目のうち、僅少なものを省略する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,857	24,088
受取手形及び売掛金	97,774	86,807
有価証券	422	422
商品及び製品	37,303	39,201
仕掛品	8,852	10,109
原材料及び貯蔵品	19,473	18,222
その他	9,490	13,760
貸倒引当金	△465	△391
流動資産合計	202,708	192,220
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	51,567	51,234
機械装置及び運搬具（純額）	62,982	65,736
その他（純額）	47,162	45,365
有形固定資産合計	161,712	162,336
無形固定資産	1,940	2,186
投資その他の資産		
投資有価証券	45,513	39,981
その他	17,286	22,093
貸倒引当金	△345	△327
投資その他の資産合計	62,454	61,747
固定資産合計	226,107	226,269
資産合計	428,816	418,489

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	55,263	43,030
短期借入金	18,891	40,304
未払法人税等	2,751	1,983
引当金	—	72
その他	27,521	33,543
流動負債合計	104,427	118,932
固定負債		
社債	20,000	5,000
長期借入金	25,375	22,254
退職給付引当金	18,517	18,116
引当金	269	265
負ののれん	899	—
その他	3,957	4,392
固定負債合計	69,019	50,027
負債合計	173,447	168,960
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	34,836	34,836
利益剰余金	190,057	188,357
自己株式	△9,587	△9,583
株主資本合計	248,353	246,656
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,354	4,643
繰延ヘッジ損益	—	1
為替換算調整勘定	△8,130	△7,996
評価・換算差額等合計	△776	△3,351
新株予約権	109	75
少数株主持分	7,681	6,148
純資産合計	255,368	249,529
負債純資産合計	428,816	418,489

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	360,005	306,752
売上原価	279,963	230,268
売上総利益	80,041	76,483
販売費及び一般管理費	68,526	63,091
営業利益	11,515	13,392
営業外収益		
受取配当金	1,101	911
投資有価証券売却益	505	—
その他	970	1,039
営業外収益合計	2,577	1,951
営業外費用		
支払利息	977	719
固定資産除却損	914	933
為替差損	505	24
その他	1,548	1,157
営業外費用合計	3,946	2,834
経常利益	10,146	12,509
特別利益		
固定資産売却益	—	191
特別利益合計	—	191
特別損失		
投資有価証券評価損	2,550	—
事業整理損	637	—
特別損失合計	3,188	—
税金等調整前四半期純利益	6,958	12,700
法人税、住民税及び事業税	2,817	3,184
法人税等調整額	378	1,708
法人税等合計	3,196	4,892
少数株主利益	202	675
四半期純利益	3,559	7,132

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,958	12,700
減価償却費	20,352	19,550
固定資産売却損益(△は益)	—	△191
事業整理損失	637	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△707	2,239
貸倒引当金の増減額(△は減少)	27	93
受取利息及び受取配当金	△1,326	△1,029
支払利息	977	719
持分法による投資損益(△は益)	164	△126
固定資産処分損益(△は益)	658	877
投資有価証券評価損益(△は益)	2,550	47
売上債権の増減額(△は増加)	26	△9,992
たな卸資産の増減額(△は増加)	△7,213	2,169
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,739	11,014
その他	△3,722	1,812
小計	14,642	39,882
利息及び配当金の受取額	1,352	1,073
利息の支払額	△966	△633
法人税等の支払額	△7,254	△750
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,774	39,571
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△18,512	△18,293
有形固定資産の売却による収入	—	191
無形固定資産の取得による支出	△709	△258
投資有価証券の取得による支出	△441	△1,161
投資有価証券の売却による収入	835	311
関係会社株式の取得による支出	△761	△449
関係会社株式の売却による収入	—	479
貸付けによる支出	△70	△227
貸付金の回収による収入	77	93
その他	238	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,344	△19,308

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	18,141	△22,202
長期借入れによる収入	5,014	2,808
長期借入金の返済による支出	△635	△918
社債の発行による収入	—	15,000
社債の償還による支出	△5,000	△5,000
リース債務の返済による支出	△419	△331
配当金の支払額	△5,441	△5,428
少数株主への配当金の支払額	△119	△169
少数株主からの払込みによる収入	36	—
自己株式の取得による支出	△597	△21
自己株式の売却による収入	27	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,007	△16,261
現金及び現金同等物に係る換算差額	△435	387
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△998	4,388
現金及び現金同等物の期首残高	21,988	24,240
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	1,106
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,989	29,735

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	化成品 (百万円)	機能性 樹脂 (百万円)	発泡樹脂 製品 (百万円)	食品 (百万円)	ライフ サイエンス (百万円)	エレクトロ ニクス (百万円)	合成繊維、 その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高										
(1) 外部顧客に 対する売上高	73,433	55,619	56,068	94,969	31,454	29,926	18,533	360,005	—	360,005
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,036	239	159	11	—	—	4,198	6,644	(6,644)	—
計	75,469	55,859	56,227	94,980	31,454	29,926	22,731	366,650	(6,644)	360,005
営業利益	798	3,780	812	2,187	5,340	1,347	1,978	16,246	(4,731)	11,515

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	化成品 (百万円)	機能性 樹脂 (百万円)	発泡樹脂 製品 (百万円)	食品 (百万円)	ライフ サイエンス (百万円)	エレクトロ ニクス (百万円)	合成繊維、 その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高										
(1) 外部顧客に 対する売上高	57,954	45,548	41,181	90,487	27,349	26,840	17,391	306,752	—	306,752
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,235	224	1	7	—	431	1,169	4,070	(4,070)	—
計	60,189	45,772	41,183	90,495	27,349	27,272	18,560	310,822	(4,070)	306,752
営業利益又は 営業損失(△)	947	6,949	4,093	6,792	2,806	△4,931	1,327	17,985	(4,593)	13,392

(注) 1. 事業区分は製品の種類、用途、製造方法、市場の類似性並びに製造過程における相互関連性、開発の基盤共通性等を総合的に判断し、取り決めております。

2. 各事業の主な製品

- (1) 化成品事業・・・塩化ビニール樹脂、塩ビコンパウンド、か性ソーダ、塩化物、塩ビ系特殊樹脂
- (2) 機能性樹脂事業・・・モディファイヤー、変成シリコーンポリマー、耐候性MMA系フィルム
- (3) 発泡樹脂製品事業・・・発泡スチレン樹脂・成型品、押出發泡ポリスチレンボード、ビーズ法発泡ポリオレフィン
- (4) 食品事業・・・マーガリン、ショートニング、高級製菓用油脂、パン酵母、香辛料
- (5) ライフサイエンス事業・・・医薬品(バルク・中間体)、機能性食品素材、医療機器
- (6) エレクトロニクス事業・・・超耐熱性ポリイミドフィルム、液晶関連製品、複合磁性材料、太陽電池
- (7) 合成繊維、その他事業・・・アクリル系合成繊維(カネカロン)、エンジニアリング業務

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	アジア	北米	欧州	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	43,249	25,935	39,727	13,191	122,104
II 連結売上高(百万円)					360,005
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	12.0	7.2	11.0	3.7	33.9

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	アジア	北米	欧州	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	43,587	16,895	26,456	11,223	98,162
II 連結売上高(百万円)					306,752
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	14.2	5.5	8.6	3.7	32.0

(注) 1. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

2. 国又は地域の区分の方法及び各区分に属する主な国又は地域

(1) 国又は地域の区分の方法……地理的近接度によっております。

(2) 各区分に属する主な国又は地域

アジア……中国、韓国、台湾

北米……米国、メキシコ

欧州……ベルギー、英国

その他の地域……アフリカ、オセアニア

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。